



ゆうすい

ふれあいネットワーク

ボランティアセンターだより

●編集・発行／社会福祉法人 湧水町社会福祉協議会 ボランティアセンター
本所：TEL 75-2200 FAX 75-2756 事業所：TEL 54-1699 FAX 74-4980

令和4年11月15日発行



夏の体験活動



私たちが出来るボランティアって何だろう？

夏のボランティア体験活動

社会福祉協議会では、ボランティア育成事業の一環として夏休み期間中、町内の小・中学生を対象としたボランティア体験活動を実施しています。
今回も多くの児童が参加し、感染防止対策を徹底した上で意欲的に活動し、充実した体験活動となりました。

2年ぶりの夏の開催

8月4日（木）、湧水町シルバークアセンタールにて、『夏の体験活動』を実施しました。今回は、栗野小・上場小・吉松小学校の小学3年から6年生までの児童23名



の参加となりました。開催直前に「コロナ第7波」が猛威を振るいはじめ、実施についてギリギリまで検討し「感染防止対策の徹底」を前提に開催する運びとなりました。



この体験活動は、ボランティア活動を通して、高齢者や障がい者に対する理解と共感を深めながら、声のかけ方や接し方を知り、共に

支え合って暮らしていく思いやりの心を育むことを目的として実施しており、また、赤い羽根共同募金の配分金が使われている事業でもあります。

体験活動の内容としては、（災害時の非常用炊出し体験）、（工作活動）、（高齢者疑似体験・車椅子体験・アイマスク体験）を行いました。



工作活動では、栗野地区の木工作家 老谷浩二氏を講師に招き、『運べる作業小イス』を作りました。

交流は形を変えて…

本会の生きがいデイサービス事業利用者との交流として、参加した児童達がコースターを手作りし手紙を添えてプレゼントしました。デイサービス利用者の方々もとても喜ばれ、手紙を書いて子ども達にお礼を伝えて間接的に交流することが出来ました。



体験活動に参加して

こうれいしゃぎじたいけんでは、せながながつていてとてもきつかった。非常用の食べものをつくるには量をちようせいしたりしないといけないということがわかった。
(栗野小4年 飯屋想乃)

高れい者ぎじ体験は、きつくて、くびやこしがいたくなって高れい者はこんなかんじなんだと思いました。
車いす体験は、後ろ向きや、だんさをのぼるのがむずかしかったです。



アイマスク体験は、前に何かがあるか、だんさがいつあるかがこわかったです。

工作作りは、とても楽しかったです。

炊出し体験もとても楽しかったです。
(栗野小4年 中村莉衣奈)

工作活動をしました。くぎをうつのはかんたんでした。りょうめんテープをはるのがむずかしかったです。

こうれいしゃになった人にやさしくこえかけをすることができました。
(吉松小4年 大隈奨介)

じっさいにやってみて、しょうがいのある人は、すぐたいへんなんだなと思った。車いすで、だんさをこえるのが、こんなにたいへんだなんて思わなかった。

(上場小4年 竹野伊弦)



一番心に残ったことは、高齢者疑似体験です。初めてやったし、おじいちゃんおばあちゃんがどう思っているかが分かって、歩くという簡単なことだと思っていたけどそれがむずかしく感じました。

工作活動は、イスをくぎでうつて作るのが楽しかったです。

これからこの体験を忘れずにそういう人に会ったら声かけをわすれないようにしたいです。

(吉松小6年 竹ノ上心優)

非常用炊出し体験では、空気をぬいたり、結ぶのがとてもむずかしかったです。

工作活動では、くぎをうつのがとてもつかれたけど、じょうぶなイスが作れてよかったです。おじいちゃんおばあちゃんに、コースターもきれいにつくれてよかったです。

車いす体験では、声をかけたり段差のところが少しむずかしかったです。

(栗野小6年 三尾野輝姫)



福祉体験学習

社会福祉協議会では、町内の小中学校へ出向き、児童・生徒の福祉教育の一環として福祉体験学習を行っています。

6月17日に栗野小学校4年生、9月9日に栗野中学校1年生がそれぞれ介護・福祉体験学習を行いました。

ふだんのくらしをしあわせに

高齢者疑似体験や車椅子体験、アイマスク体験を通して、福祉に関する理解を深めるとともに、相手の立場に立つてものごとを考え、



行動することを目的として、福祉体験学習を行いました。

又、中学生は実際の介護に必要な知識や技術の習得を目指し、意欲的に取り組む姿が見られました。普段あまり接することが少ない高齢者や障がい者の方々の気持ちを考えたり、不便さを体験したり、声かけの仕方等を学んだり、体験学習が貴重な時間となりました。

介護体験学習に

参加して

アイマスク体けんで、目の見えない人たちは、こんなに真っ暗でだんさがある所や、坂になっている所を歩くことが、とてもこわいということを学びました。福祉体けんをして目の見えない人の気持ちを知ることが出来てよかったです。

(栗野小4年 老谷心菜)

私は、高れい者ぎじ体けんが心にものこりました。理由は、こしや首、し線が見えづらかったり、いたかったりしたからです。これからは、おじいちゃん、おばあちゃんには色々とお手伝いをできたらなと思いました。

(栗野小4年 有木まお)



私は、アイマスク体けん、車いす体けん、こういうしやぎじ体けんを学びました。これからは、福祉体けんのことを生かして、目のふじゆうな人たちや歩けない人などを、見かけたら、福祉体けんて習ったことを思い出しながらいきたいと思います。

(栗野小4年 東上床羽希)



介護体験学習に

参加して

介護をする人は、本人にわかりやすく声掛けをすることが大切だということが分かりました。

アイマスク体験では、階段は目の見えない人からしたら、とてもこわいと思いました。また、目の見えない人は人の声にたよらないと歩けないことが分かりました。これからは、困っている人がいたら、ていねいな声掛けをして、みんなが幸せに暮らせるようにしたいです。

(栗野中1年 坂口尚輝)



アイマスク体験で、初めは「知っている場所だから簡単だろう」と思っていました。でも、やってみると大変で、となりの人やまわりの音だけを頼りに進むのは難しかったです。となりにつくときは「右」「左」「あと〇歩で…」と声をかけるときも正しい情報を伝えなければいけないので大変でした。

高齢者疑似体験では、体がどんな動かなくなり、背中も曲がって、視界もぼんやり、せまくなり歩くことは大変でした。体が重くて動きにくかったです。車いす体験は、坂を下ったり、

段差を上げるのが少し「ぐらっ」としました。動かす人が声をかけていくのに安心しました。動かすときは、正しく伝えるようにしました。いつものコースなのに、変わって見えました。

(栗野中1年 鈴木環奈)



ことのこわさや体を自由に動かせないことの大変さに気付くことができました。また、体が不自由な方や視覚障がい者の方は誘導してくれる人を信頼していかないといけないこと、誘導する人は責任をもって、声かけなどの工夫をし、安心できる誘導をしていくことが大切だと気付くこともできました。そして、高齢者疑似体験を通して、高齢者の方のきつさや、普段の生活の中で難しいことや、不便なこととは何かを知ることができました。車いす体験やアイマスク体験、疑似体験を通して、とても貴重な経験をすることができ、これからの生活に生かしていきたいと思いました。

(栗野中1年 植林里帆)



介護体験学習を終えて、視覚障がい者の方や、体が不自由な方が生活している時に、どんな大変な思いをしているのかを知ることができました。車いす体験やアイマスク体験を通して、目が見えない

ファミリー・サポート・センターゆうすいからのお知らせ

ファミリーサポートセンターでは『子どもの預かり・送迎等の援助をしてほしいかた（依頼会員）』と『子どもを預かり、送迎支援等のお手伝いをして下さる方（提供会員）』が会員として登録し、お互いに育児を支え合うことにより、地域全体で安心してゆとりある子育てができる環境をみんなで作っていく相互援助活動を行っています。

提供会員になって下さる方を募集しております。

◎湧水町在住の方

◎心身ともに健康で熱意を持って活動して頂ける20歳以上の方

◎センターで実施する講習を受け登録した人



提供会員に登録すると…

◎30分から活動ができます！

◎子育てや援助方法について学べます。
（幼児救急法などの講習会を年に2回開催しております）

◎補償保険に加入するので安心して活動ができます。



子育てが一段落した方、地域での子育て支援に興味のある方、子育てしやすい町づくりを目指して、みなさんのご協力をお待ちしております。



幼児救急法講習会を開催しました

AEDの使い方について



AED



お父様方も積極的に参加してくださいました！

令和4年9月14日に、よしまつふれあいの家にて幼児救急法講習会を開催しました。日本赤十字社鹿児島支部より講師を招き、子どもに起きやすい事故について詳しく学ぶことができました。また、資料を使い活動中に気をつけることなどをみなさんでチェックすることができました。

ファミリーサポートセンターゆうすいでは定期的に幼児救急法の講習会を開いております。活動に興味のある方、講習会への参加を希望される方はご連絡下さい。

お問い合わせ・申し込み

◎湧水町社会福祉協議会

始良郡湧水町川西3079-2

TEL：75-2200

◎ファミリーサポートセンターゆうすい

よしまつふれあいの家

始良郡湧水町中津川447-4

TEL：75-2811

FAX：73-7577

湧水 わくわく サービス

～住民参加型生活サポート事業～

地域の誰もが日常生活の中で、「困りごと」を抱えています。社会福祉協議会では、気軽に支え合って安心して楽しく暮らしていける「支え合いの地域づくり」を目指しています。気軽に「助けて」が言えて、「私でよかったら」「こんなことでよかったら」と言いあえる相互に助け合うサービスです。

(対象者) ひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯など日常生活で支援を必要とされる方
(依頼会員)

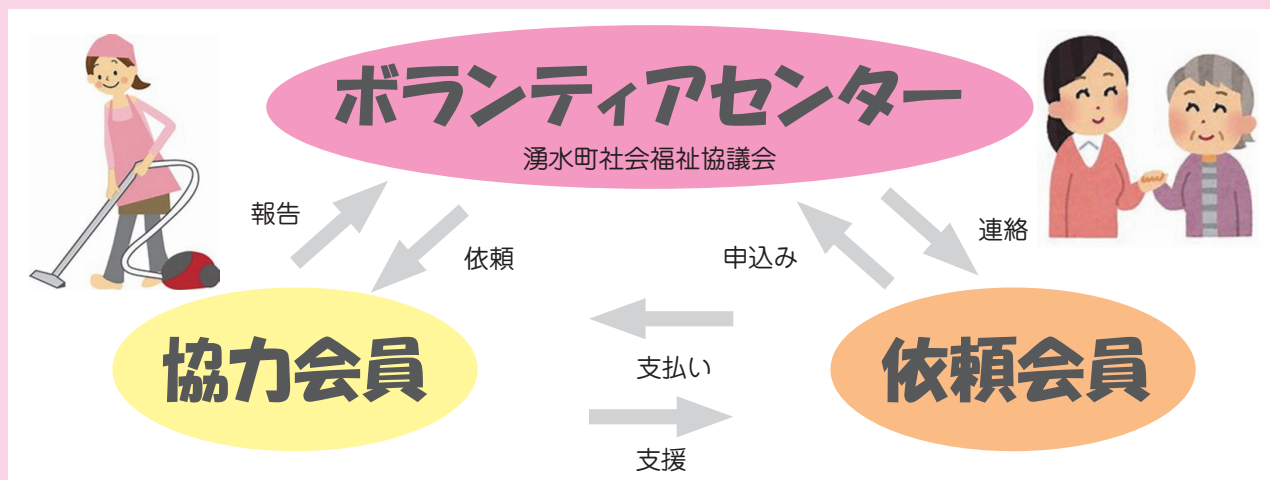
支援して下さる成人以上で健康な方、地域福祉に理解のある方 (協力会員)

(内容) 掃除・洗濯・買い物・ごみ出しなど

(利用料) 30分300円 (ごみ出しは、1回100円)・・・町の助成により個人負担半額

(利用料の支払い方法) 利用者の方に、事前にチケットを買っていただきます

(利用方法) 事前に登録が必要です



協力会員募集!!

現在、「時々でいいのでお掃除をお願いしたい」「ゴミ出しをお願いしたい」等、日常生活の中で困っていらっしゃる方が増加傾向にあります。地域での支え合い活動にご協力して頂ける方、是非、社会福祉協議会へご連絡ください。



タオル寄贈



湧水町老人クラブ連合会吉松地区女性部から、タオルを寄贈して頂きました。社会福祉協議会の事業で、有効に活用させていただきます。

ありがとうございました。



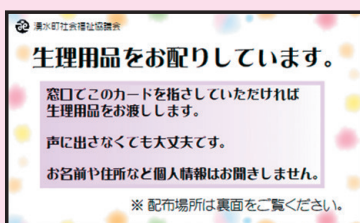
必要な方に生理用品をお渡しします。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、女性の雇用や生活に大きな影響をもたらし、もともと存在していた「生理の困窮」の問題が表面化しました。経済的な理由等により生理用品を購入できないことのみならず、様々な事情が背景にあり、女性の健康や尊厳に関わる重要な課題として、この問題に取り組もうという動きが全国的に広がっています。

社会福祉協議会では、長引くコロナ禍において、様々な事情で生理用品の用意ができず、困っている方に対して生理用品を無償でお渡ししています。



鹿児島県



※公共施設等トイレ内において生理用品の設置の他、窓口には左記の引き換えカードを用意しております。

〈引き換え場所〉 ☆シルバーケアセンター
☆よしまつふれあいの家



赤い羽根共同募金運動実施中

今年も10月1日から12月31日まで全国一斉に「赤い羽根共同募金運動」が始まりました。この運動は、第2次世界大戦後に「国民たすけあい運動」として始まり、生活に困った人たちを共済しようと、昭和22（1947）年からスタートしたものです。時代のニーズに合わせて、その使い道も変遷してきました。

現在では、様々な地域の課題解決に取り組む民間団体を支援する「じぶんの町をよくするしくみ」として、地域の福祉活動を支援しています。

湧水町社会福祉協議会でも、より良い地域づくりのために、様々な事業に取り組んで参りますので、皆様のご支援ご協力の程よろしくお願い致します。

※皆様から頂いた募金は、鹿児島県共同募金会へ送金し、翌年、福祉活動資金として配分され、各市町で配分金として地域福祉活動資金に使われます。湧水町では、下記の事業を実施しています。

- | | | |
|---------------|----------------------|---------------|
| ○独居老人誕生日訪問事業 | ○おせち料理配付事業 | ○洗濯乾燥消毒サービス事業 |
| ○ふれあいきいきサロン事業 | ○社会福祉大会 | ○ひとり金婚者の祝い |
| ○ボランティア活動事業 | ○ボランティア協力校（小・中学校）助成金 | |
| ○各種団体助成金 | ○地域福祉部（各地区福祉部）助成金 等 | |